

2018年度アジア・日本研究推進プログラム採択プロジェクト

「北朝鮮問題についての総合的研究—長期化と国際化の観点からの再構築—」主催シンポジウム

「南北首脳会談とその後の展望」

2018年4月23日(月) 10:00～15:00

場所：創思館カンファレンスルーム

PROGRAM

10:40 - 12:10

公開講義 「南北首脳会談と朝鮮半島の将来」

※【公開】どなたでもご参加できます。※使用言語：韓国語（日本語への通訳有）

講演者：洪翼杓（韓国国会議員）

司会：崔鎮旭（立命館大学）

討論者：安仁海（高麗大学）

中戸祐夫（立命館大学）



洪翼杓

-大韓民国 国会議員-

12:30 - 14:00

ワークショップ「朝鮮半島核危機と地域安全保障のダイナミズム」

※【非公開】一般公開はありません。※使用言語：英語（通訳はありません）



司会：張達重

-ソウル大学名誉教授-

参加者



安仁海

-高麗大学-



李貞澈

-崇実大学-



崔鎮旭

-立命館大学-



中戸祐夫

-立命館大学-



李明

-国立政治大学-



林恩廷

-立命館大学-

立命館アジア・日本研究機構プロジェクト

「北朝鮮問題についての総合的研究—長期化と国際化の観点からの再構築—」とは？

本研究プロジェクトは、北朝鮮の核兵器高度化過程で現出した持続可能性を踏まえ、従来の近視眼的かつ一面的な北朝鮮研究をより長期的視野に基づく総合的なものへと転換させ「北朝鮮の多面的実体」を示し、かつ北朝鮮との和解・共生の道を探るべく実施されるものである。より具体的には、冷戦体制崩壊以後これまで北朝鮮をめぐる研究の多くは、北朝鮮の早期崩壊を前提とした一面的かつ近視眼的なものによってなされてきた。しかしながら、こうした推測は冷戦体制崩壊後約27年間の検証を経てその妥当性に大きな疑問符がついている。北朝鮮は覇権国である米国と対立しながらも約27年間崩壊せずに生存してきたばかりでなく、近年その核兵器高度化に伴い安全保障上の脆弱性が改善したことによって、崩壊の可能性が一層低下してきていると想定される。上記の仮説—早期崩壊の可能性の低下—は、昨今観察されている南北首脳会談、米朝首脳会談を含めた南北・米朝の接近により一層顕著となってきているといえよう。上記プロジェクトの一環として、今回のシンポジウムでは4月の南北首脳会談に焦点を当て、南北首脳会談が開催される意味を考えるだけでなく、その後の南北関係、米朝関係の展望についての議論も深めていくことで、北朝鮮問題の新たな一面を浮き彫りにする。